

X線CT用ノイズキャンセリングヘッドホン使用の検討

中濃厚生病院 野田季江

当院で経験した乳房疑陽性症例

岐阜社会保険病院 放射線科 ○布村 綾子 新名 裕子

【症例】

62才女性。御嵩町乳がん検診のマンモグラフィーにてカテゴリー4の右腫瘤を指摘され、精査目的で2010年2月当院受診。

【画像所見】

MMG：MLOではM領域の胸壁よりに、CCでは外側に、不整形、辺縁不明瞭、等濃度のカテゴリー4の腫瘤を認めた。

US：CD領域の筋層内にlow echoがあり、乳腺と筋層の間にダクト様エコーが多発。腫瘤ではなく、乳管拡張症を疑った。

【結果】

1年前に乳房の左右差を修正する目的で、右のみにヒアルロン酸を注入したためそれが写ったのではないかと考えられる。通常注入したヒアルロン酸はMMGで高濃度の腫瘤のように写るが、注入したヒアルロン酸は徐々に体内に吸収され、効果は1～2年ほどしか維持しないため今回のような画像所見になったと思われる。

【まとめ】

撮影時にはペースメーカーや豊胸手術をしていないか確認しているが、パックなどを入れていないため豊胸手術としての認識が低いせいなのか忘れていたのか、していないと言われ、撮影時にはヒアルロン酸注入の情報がなく腫瘤を疑った。よって今後、問診のあり方について検討していきたい。また当院では臨床検査技師がUSをしており、いままでは検査結果を知ることができませんでしたが、電子カルテを導入したことにより、カルテやレポートを容易に閲覧できるようになったので、今後も活用し役立てていきたい。

SONIALVISION Safire17 の使用経験 —SLOT 撮影の有用性—

社会医療法人 厚生会 木沢記念病院 医療技術部 放射線技術課
○小瀬 尚輝 川村 忠 庄司 力哉 井戸 泰伸

【背景】 当院では従来、全脊柱や全下肢撮影に対しては、半切のイメージングプレート 2 枚を用いた長尺カセットを使用して撮影し、フィルムに合成出力していた。

2010 年 2 月、SHIMADZU 社製 SONIALVISION Safire17 が導入され、現在、この装置のオプション機能の一つである SLOT 撮影を用いて長尺撮影をする試みをしている。

【目的】 全下肢撮影について有用性を経験したので報告する。

【対象】 SLOT 撮影 20 例（男性 9 名、女性 11 名） 平均年齢 74.15 歳±11.07
CR 撮影 20 例（男性 8 名、女性 12 名） 平均年齢 66.95 歳±10.21

【検討項目】 ①撮影からフィルム出力までの時間
②ポジショニング（安定性、安全性）

【結果】 ① SLOT 撮影…6.44 分 CR 撮影…12.67 分
② 透視台で撮影を行う SLOT 撮影の方が CR 撮影に比べて足台、手すり、背もたれがあるので安定性がある。

【まとめ】 撮影にかかる時間については SLOT 撮影は CR 撮影の約半分であった。立位困難な患者の場合でも透視台に傾斜をつけることで安全で、安定性したポジショニングが得られた。

【今後の課題】 SLOT 撮影では 1 曝射で撮影できないので静止できない患者、息止めでできない患者の撮影方法や 極度のえん背、関節が変形しているような患者のポジショニングについて考慮する必要がある。

【結語】 全下肢撮影における SLOT 撮影は有用である。